

研究・調査報告書

報告書番号	担当
9 9	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
The effect of weight history on glucose and lipids: the Atherosclerosis Risk in Communities Study. 血糖、脂質に対する体重変化の影響：地域集団における動脈硬化リスク研究	
執筆者	
Truesdale KP, Stevens J, Cai J.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Am J Epidemiol. 2005;161:1133-43	
キーワード	
血糖、HDL コレステロール、LDL コレステロール、肥満、中性脂質、体重増加/減少	
要 旨	
<p>体重の履歴の影響を検討した研究はほとんどない。地域を対象にした動脈硬化のリスク探索を目的にした研究(ARIC study)の現存するデータを用い、標準体重(BMI:18.5-24.9)グループの中の体重減少群(775 人)、体重維持群(5,164 人)各々の危険因子について比較を実施した。この1987-1998 年の米国研究において、肥満のおそれがあるグループ(BMI:25.0-29.9)の中の体重増加群(1,296 人)と体重維持群(6,721 人)の2 群について同様の検討をおこなった。</p> <p>人種、性別、年齢、教育、地域、喫煙、アルコール消費、追跡期間、BMI を調整した混合モデルを使用した。体重維持の履歴のある集団と比較すると、3 年間で体重減少の履歴のある集団は、総コレステロール、LDL コレステロールで改善があり、血糖、HDL コレステロール、中性脂質では変化が見られなかった。一方、肥満のおそれのあるグループにおいては、3 年の間に体重増加のあった集団で、血糖、コレステロール、中性脂質は体重維持群と同じであった。これらの知見は現在の体重に加え、体重変化の履歴が血糖、脂質の値にインパクトを与えるであろうことを示唆している。</p>	